

# 宮崎・鹿児島県 児童福祉施設職員並びに子育て関係者合同研修会

特定非営利活動法人 こじいの森・こどもの時間（とき）  
〒885-0044 宮崎県都城市安久町 2546 番地 1

## 助成事業の概要

あそびの大切さと子どもの見方を学び、言葉・音・遊びを含む“わらべうた”の現場での活用法の習得。

1. 5月16日（木）19:00～21:30 小林市文化会館 17日（金）19:00～21:30 都城市コミュニティーセンター

あそびを通して、子どもの行為をどう見るかについて子どもの発達を中心に考えていく。（乳児編）

2. 6月13日（木）19:00～21:30 小林市文化会館 14日（金）19:00～21:30 都城市中央公民館

あそびを通して、子どもの行為をどう見るかについて子どもの発達を中心に考えていく。（幼児編）

3. 7月11日（木）19:00～22:00 小林市文化会館 12日（金）19:00～22:00 都城市コミュニティーセンター

沖縄の伝承文化を通じ、わらべうたあそびの文化的な可能性や発達支援の視点について考えていく。

4. 7月12日（金）10:00～12:30 都城市総合文化ホール内和室

沖縄の伝承文化を通じ、わらべうたあそびの文化的な可能性や発達支援の視点について考えていく。

講師：1、2 熊谷良子氏 - カウンセラー

3、4 田中美也子氏 - NPO 法人 うてい～らみや

対象：子どもに関わる支援者（保育士、児童厚生員等）、4については親子を含む。

事前に、チラシを作成し公共施設（市役所、図書館等）や保育所等へ配布し告知した。

のべ200名参加。7月講座は、予定した時間よりそれぞれ30分延長した。

## 事業の成果

現在の子どもを取り巻く環境を考え、今だからこそ大切なことばやわらべうたあそびを伝える際に、0ヶ月からの子どもの発達について学びながら、現場ですぐに使うことができるあそびを体験することができた。また子育て応援団としての集団づくりは、ほとんどの参加者が保育園・幼稚園単位であったことで可能になり、その他個人的に参加した人々も、同じ外部講師による学習会へ誘い合って積極的に参加する様子が見られた。隣県である鹿児島県や地元の大学である南九州大学人間発達学部からも現場の職員や学生が参加。同じ地域で同年齢の子ども達や大人を対象とする支援者という立場の人達が、一同に会し同じ思いで学習する機会が得られたことは刺激にもなり大変有効であったと思われる。

参加者の立場を考えると、7月講座の日程が保育園等の行事と重なってしまい、参加したいのだがどうしてもできないという声もあったことから、今後は講座の日程については考え直すことが

必要である。

参加者アンケートより抜粋。

- ・乳幼児期のわらべうたあそびや発達が学べてよかった。
- ・子どもの発達を交えながらその年齢に合ったわらべうたを教えてもらえたので、ずっと頭に入ってきてよかった。
- ・わらべうたがどのように保育や子どもに役立っているのかわかってよかった。
- ・子どもの目線に立って、それぞれ頑張りや成長を認めてあげられる関わりを心掛けたいと思った。
- ・クラスの子どもの顔を浮かべながら話を聞くことができたのでよかった。
- ・発達に沿った子どもの育ちをととても詳しく話して下さるのがとてもためになっています。
- ・とても楽しくゆったりとした中で学べてありがたかった。沖縄の文化を知ることができ、わらべうたの大切さが本当によくわかり、もっともっと学びたくなった。お手玉も布も地域の物を使って（自然の色で染めたもの）で遊ばせることのすばらしさも味わい体験できてありがたかった。
- ・子ども達と1対1で関わるクーイングを大切にしていきたい。

## 成果の広報、公表

助成決定後にチラシを1,000～2,000部作成し、都城市内及び三股町を含む宮崎県内や末吉・財部町（鹿児島県）の公共の施設や市民や県民が立ち寄りそうな箇所へ配布。チラシをマスコミ各社へファクスし、地方紙（宮日新聞）で告知してもらう。新聞に掲載されたことで、話題になり申込みや問い合わせも増えた。

都城市や三股町では、認可保育所文書受け（市役所内設置）へ配布、合併し広がった旧4町地域へも園を中心に広報する。在宅保育中の親子へ

も、児童館利用者を中心に昼の部参加を呼びかけた。

講座の実施前や後に、告知や報告も含めて会のホームページにて情報を掲載した。7月12日（金）昼の部には、地元ケーブルテレビの取材を受け、翌週ニュース番組に5分程度流れた。夜の講座での評判を聞いて、昼の部に参加された方もあった。

また講座最後には、毎回アンケートを行い、なるべく参加者の意向を汲みながらよい学びとなるよう工夫した。

## 今後の展開

子育て支援者においては、子どもの発達を熟知していること - 単なる知識としてばかりではなく、目の前の子どもについてわかっているということ - が必須であり、そのためには繰り返し現場の実践につながる話を聞きながらわかっていることや気をつけることを確認したり改めて理解するのがよいと思われるので、次年度以降も子どもの発達とあそびや日本の文化・伝承に関する体験型の講座を行う。

そして地域において、生後直後の子ども達へしなければ後から取り返しがつかない関わり的重要性について知る人が増え、人間の芯とも言えるものが心の中で育っていく子ども達が増え続けるよう学習会を継続させる。

また今回以上に、大学や当事者である子ども達の保護者の参加がしやすいまた参加数が増えるような日時の工夫を行いながら、同じ目的を持つ人同士が学べる場を提供する。

将来的に児童虐待予防・防止へつながることを念頭に置きながら、今後すぐには無理かも知れないが、経済性を考慮して徐々に外部講師に頼らず会の人間が講師として講座の場に立てるよう勉強会を計画していく。